

台湾視察雑感

松川 清伯

去る6月22日から3日間の予定で西原町建設協会が主催した「台湾MICE」視察に参加した。短い日程で桃園航空城をはじめ、台北世界貿易センター、南港展示場などを視察した。

南港展示場は、2600ブース(1ブース3m×3m)もある広大なスペースで食品展が開かれていた。この中に日本ブースもあり、沖縄の久米島・久米仙も出品されていた。

台湾MICEの視察で、沿道の植栽の手入れが行き届き、煙草の吸殻やゴミのポイ捨ても見られない。街

の中は95%の地域で無電柱化が進み、道路が広々と見えて景観、美観に感心した。「街がきれいになると、人の心もやさしくなる」というツアーコンダクターのコメントが心に響いた。

帰国後に我が街の国道、県道、市町村道の雑草が伸び放題であることに落胆した。地域に住む人たちの心がけ一つによって街が変わるのではないかと痛感した次第である。



歯医者にて☆

上原 麗奈

先月娘の前歯がやっと抜けました。早く可愛い「はもーちゃん」の笑顔が見たくて心待ちにすること数か月…。上の前歯二本なのですが、グラグラはするものの、一向に抜けてくれません。しばらくすると、食べ物をかみ切ることさえ痛がってきたので、かかりつけの歯医者へ行くことにしました。先生曰く「ここまでぐらぐらしていると、ガムテープを皮膚に貼り付け、一気にベリッと剥がす感じなので一気に抜けば何の問題もありません。表面麻酔だけで大丈夫でしょう。」とサラリと答えられた。そういえば私も父親にペンチで一気に引っこ抜かれた記憶がある。痛さだっ覚えていない…。でも娘にするのは正直不安…。怖い想像が膨らむ中、一瞬で

終わってしまいました。抜かれた本人も、看護婦さんにすぐ「鏡貸してえ！」と余裕の笑顔。抜けてしまった乳歯は、ひと昔前まで歯の生える方向めがけて投げたものですが、今では抜けた記念に可愛い乳歯ケースに入れて保存することが主流となっているようです。

さて、ここ最近、沖縄県で問題視されている幼児の口腔崩壊。原因は貧困であったり、子に対する親の意識の低さ、親自身に歯磨きや虫歯治療の習慣がない世代間連鎖を指摘されているようです。

私も忙しく構ってやれないこともしばしばありますが、歯がどれほど大事かということを幼少期から教え込む事は親の大事な努めだと思っています。

さあ、あと1本!ぐらついた歯はいつ抜けるのかなあ^^



発行所/ (有)桜設計工房
所在地/ 那覇市港町2-7-7
みなと277 4F
電話/ 098 (867) 5987
FAX/ 098 (863) 7690
E-mail: info@sakura39.biz
http://www.sakura39.biz
発行人/ 喜名英之

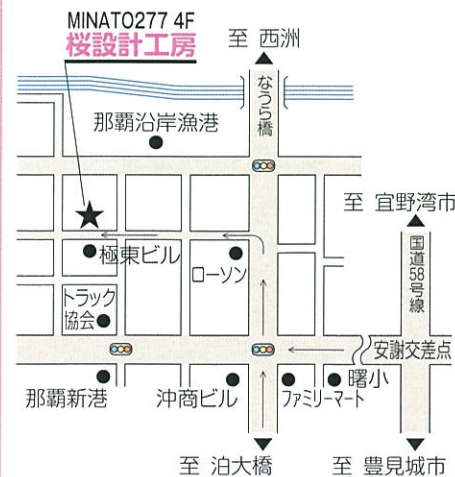
西原支店/ 西原町小波津233-16
電話/ 098 (946) 5066
FAX/ 098 (863) 7690
宜野座支店/ 宜野座村字惣慶1829-2
電話・FAX/ 098 (968) 7222

創業/ 昭和61年7月1日

営業種目

- * 建築企画設計・監理業務
- * 特殊建築物等調査・検査報告
- * 耐力度調査
- * 耐震診断・改修設計監理業務
- * 補償コンサルタント業務

企業理念 = 私達は、誇り、使命感を持って顧客の信頼を第一とします。その上で人と自然が共存し、豊かな地球環境を創造して社会の発展に貢献します。さらに建築設計を通して感動、満足、安心を与え、明日への夢と希望を提供します。



弊社の業務紹介



(有)桜設計工房
代表取締役社長 喜名英之

前回より巻頭言を担当することになり、緊張の連続です。今回は改めて弊社の業務内容をご紹介します。

海の見える那覇市港町に本社を構え、日々建築設計活動に勤しんでいます。昭和61年7月に現会長の松川が創業し、昨年30周年を迎え今年より31年目に入りました。創立30周年を迎えたときに企業理念を明確化すべく「思いを形に、喜びと感動を」スローガンとしました。お客様の思いを建築という形にすることに、我々自身が喜びを覚え、感動することが理想です。

建築設計・監理を主な業務としながら耐力度調査、補償コンサルタントなど建築設計に係る幅広い業務をいたしています。

前年度は公共工事が7割、民間工事が3割でいどで公共工事の割合が多かった年でした。しかし、その比率は逆転することもあり様々です。

現在のスタッフは一級建築士6名、設備設計一級建築士1名、二級建築士3名、積算士3名が在席しており、大型物件から中小物件、改築などにもきめ細かく対応しています。用途も学校、体育館、集会場、工場、店舗、共同住宅、住宅、耐震改修まで数多くの実績があります。構造種別も鉄筋コンクリートを中心としながら鉄骨造を得意としています。そして用途や使いかたを合わせた柔軟な対応が出来ると自負しています。

事務所の実績についてもホームページで作品等の紹介もしており、近々ホームページもリニューアルの予定です。弊社の近くを御通りの切は是非お立ち寄り下さい。

さらに弊社が力を入れている、ひとつにコストチェックがあります。さくら通信で何度か紹介させていただいていますが、設計を進める過程で建設費用をチェックし、予算内で施工できるように調整していきます。建築に思い入れが大きいほど建設費用が肥大化しやすいので、節目節目で調整可能かどうかの確認をとるようにしています。

業務の中では、図面を作成することが大きなウェイトを占めます。現状は一般的な図面(2D)で進めていますが、図面精度を上げることと建物イメージを把握するため、3D(BIM)での設計を取り入れるべくトレーニング中です。

今後とも建築を通して皆さまのお手伝い出来ることを望みつつ、建築に関する情報や日々の出来事を「さくら通信」に載せて発信していきたいと考えています。



「シロアリの群飛」

大城 哲男

沖縄に生息するシロアリは、季節に関係なく家屋を食い散らかす、あなどることのできない昆虫である。なかでも建物に多大な被害を及ぼすのが、「ヤマトシロアリ」と「イエシロアリ」の2種類です。

シロアリは繁殖期になると、羽アリが巣から飛び出し、対(ペア)になって新しい巣作りをはじめます。多数の羽アリが飛び出すことから、これを『群飛(ぐんぴ/スウォーム)』と言います。群飛の時期と条件は、種類によって異なりますが、「ヤマトシロアリ」の群飛は4月～5月(沖縄では2月ごろ)、「イエシロアリ」は6月～7月のようです。

シロアリは、目が退化しているうえ、光を嫌ってその一生をほとんど地中の暗闇で過ごしますが、羽アリは光を恐れず飛び出してきます。群飛が終わると根元から羽を落としますので、群飛のわずかな時間だけに存在するものなのです。

羽を落としたのち、雌の出すフェロモンに雄が

寄ってきて新居(コロニー)を作り、一生夫婦仲良く暮らし、10～15年もの間、卵を産み続けるといわれます。シロアリの群飛が近所で見られた場合は、シロアリの巣が近くにあると言う事になりますので、気を付ける必要があります。

大切な財産である建物を守るには、建物周辺に木杭や垣根、木片等を放置したり、埋めたりしないこと。床下の通風に考慮し、換気口の前に植木鉢などを置かないようにするなどの注意も必要です。シロアリの好む「日当たりの悪いところ」、「暖かいところ」、「湿気の多いところ」を定期的に観察・確認することも大事なことです。そして、異変を感じ発見した場合は、「専門業者」に協力を求め、早期の対応が最良の対策になります。常日頃

から、建物に対する維持管理に関心をもち続けることが、ながく付き合っていく建物を守ることになります。

(2017.5建築士・発行誌引用)



「(株)石川部品店西崎営業所」完成!

島 正道

設計から足掛け1年「(株)石川部品店西崎営業所」のタイヤ交換工場が糸満市西崎に無事完成しました。本施設は、施主の(株)石川部品店の創業の地、糸満にある営業所の業務拡張の為、タイヤ交換施設を増築しました。タイヤ交換は、乗用車から大型トレーラーのタイヤ交換にも対応した造りとなっております。

2月より地鎮祭を行い工事を進めていきましたが、現場での初体験は、落成式の時に竣工式を行ったことです。竣工式とは、「工事完了時に神を祭って工事が無事に終わったことを感謝し、完了した建物の今後の安全を祈願する祭事。」との事で地鎮祭同様に神主さんに委託して行う神事です。先輩に聞くと、竣工式は住宅等ではあまりやらない様ですが、店舗などの新築ではよくやるそうです。

今回の現場では、施主・施工者の協力のもと順調に完成した事を感謝します。



竣工式の様子

施設概要 構造:鉄骨造 1階建て 床面積:157.62㎡
施工:(株)照屋土建



建物外観



建物内観



土地の神様にも感謝です!

「グスクロード公園」見参!

崎原 利克

南城市のグスクロード公園の遊具が4月にリニューアルされているということで遊びに行ってきました。訪れた日は天気も良く高台に位置しているので目の前に広がる海と緑のコントラストが最高でした。親の感動をよそに子供は景色の事などどうでも良いようで楽しそうな遊具を見つけると一目散に駆けていきました。

遊具は幼児にも楽しめるものが多くあり足元も柔らかいゴムチップが敷かれていて安心して遊べるようになっている点良かったです。駐車場も広く大屋根の広場などもあり弁当を持って気軽に訪れる場所になっていました。



一周するロープウェイも大人気!



小さい子でも安心!



絶好のロケーション!

夏場は、通常より危険が潜んでいる

伊禮奈津子

7月に入り、気温が30度を超える毎日となっています。私たち設計監理業務の現場での立会い検査や確認等の携わる時間でバテてしまいがちです。より一層の体力勝負を実感してしまいます。ましてや職人さんの過酷な日々の中での作業は、体力や集中力を奪われてしまいます。熱中症や集中力の低下は大きな事故に繋がる可能性もある為、現場での安全管理・健康管理を心がけてもらいたいと思います。

昨年末に起工式を行った建物が今月中旬には、6階屋根コンクリート打設(棟上げ)となります。建物の構造体(躯体)作業工程を終えた節目となります。これまで安全に工事ができた感謝とこれから竣工に向けての無事を願いたいと思います。



↑前回の打設状況(6階床)

スラブ打設は、炎天下の中での作業が続きます。



←最近見られるようになった扇風機が設置されている作業服も熱中症予防のアイテムですね。



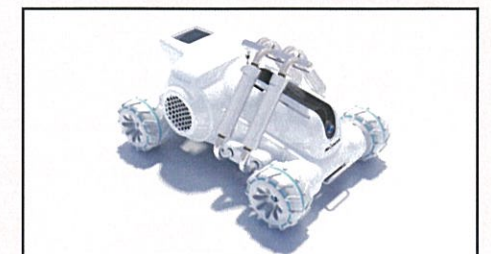
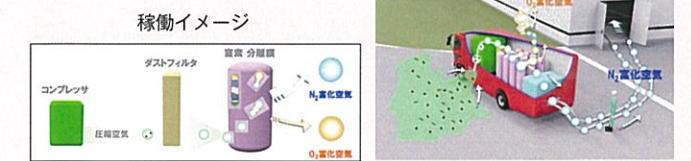
「空気消防車」って何? 野原 智子

深夜テレビ番組で『空気消防車』という文字が目についたが、眠気が勝りそのまま眠りに落ちていた・・・何の事だかご存知ですか?モヤモヤするのでネットで調べてみました。

⇒ 空気から消火薬剤を作り放出できる消防車(世界初)

災害現場空気中の窒素濃度をコントロールし、人体への影響が小さく燃焼できない酸素濃度(12.5%)を維持することを可能とし、消火薬剤として放出できる消火設備「窒素富化空気(NEA)システム」を搭載する消防車両の事で、大規模地震のように水や消火薬剤の調達が難しい状況での消火活動、可燃性ガス発生時の爆発防止、石油備蓄基地や水損被害が危惧される博物館や美術館、文化施設、データセンターといった場所での活用・・・が期待されている。という事ですので原子力施設に納入済のようです。

「燃焼できない酸素濃度」という数値があるんだ・・・様々な分野で考える視点が違ってて少し面白い。新しい技術はそうして開発されていくんだなあ～。



小型のものもあるようです。